

令和6年3月6日  
株式会社シーエス・ワンテン  
パラマウント・グローバル・ジャパン株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和6年3月6日（水）16時00分～
- ・場所 東京都港区虎ノ門 4丁目  
パラマウント・グローバル・ジャパン株式会社 A会議室
- ・出席者 審議委員総数 7名  
(出席委員)
  - 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
  - 委員
  - 議長 江口 靖二（合同会社江口靖二事務所 代表社員／  
一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム 常務理事）
  - 関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
  - 野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
  - 芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
  - 平島 綾子（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集 編集長）
  - 松尾 健司（株式会社J-WAVE 編成局次長 エグゼクティブプロデューサー）

(衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉（代表取締役社長）
- 中口 裕丈（編成局長）

(番組供給事業者：パラマウント・グローバル・ジャパン株式会社)

- 本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター）
- 梅田 昌宏（コンテンツ・ディストリビューション・マネージメント本部  
ネットワーク営業部 部長）
- 戸田 裕介（クリエイティブ&コンテンツ部  
編成/タレント&ミュージック シニアマネージャー）
- 河内 英理也（コンテンツ・ディストリビューション・マネージメント本部  
ネットワーク営業部 マネージャー）

- ・ 審議番組 「MTV VMA J 2023」
- ・ 放送概要 2023年12月10日（日）19時00分～22時30分
- ・ 番組内容

MTVでは、2023年11月22日にKアリーナ横浜にて開催した音楽アワード「MTV VMA J 2023」の様相を収録し、12月10日に放送しました。「MTV VMA J」は、全米最大規模の音楽授賞式「MTV Video Music Awards」の日本版として、2002年以来開催している音楽アワードとなります。2022年10月1日～2023年9月30日に発表されたミュージックビデオを対象に、各部門の最優秀作品を選出。年間で最も優れたミュージックビデオに与えられる「最優秀ビデオ賞」は、Mrs. GREEN APPLEの「ケセラセラ」が受賞しました。さらに、受賞アーティストのライブパフォーマンスとしてaiko、ano、BE:FIRST、チャウヌ、Mrs. GREEN APPLE、NiziU、乃木坂46、山下智久 など、計15アーティストが出演し、会場を大いに盛り上げました。

・ 委員からの意見・質問とMTVの回答

- 編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
- 会場で見たとときに感じた熱気やライブ演出の良さが番組にも反映されていて、非常に楽しめる内容であった。
- 会場では見るができなかったアーティストの表情もしっかりと見る事ができた。
- 山里さんのMCがうまく、番組の長さを感じずに、飽きずに見ることができた。
- 出演者が豪華で素晴らしいブッキングであった。MTVとアーティストの信頼関係がしっかりと築かれていると感じた。
- アジアのアーティストも出演していることで、よりグローバルなラインナップになっていることが良かった。
- ステージデザインや照明が素晴らしかった。2つのステージでテンポよくライブを見せる構成も良く、Kアリーナ横浜という会場はアワードに向いていると感じた。
- 横浜市とコラボレーションしていることも、街全体でアワードに取り組んでいることが感じられて、素晴らしいと思った。
- ライブをテンポよく見せることに関しては今の構成でいいと思うが、贈賞式と考えた際に、このバランスでいいのかと思うこともあった。
- 番組内で過去のVMA Jの映像や、歴代の受賞作品の紹介などがあると、会場を見た時とは違う、放送ならではの楽しみ方もできたと思う。放送では、別のMCを立ててもいいのではと思った。
- 各賞を順番に紹介していく流れが単調に感じた。最後の「最優秀ビデオ賞」の発表の盛り上がりはよかったです。他の賞でもこういった発表の仕方があってもいいと思った。
- 「最優秀アーティスト賞」「最優秀アルバム賞」といった特別賞が、ミュージックビデオの賞と混同して紹介されていて、賞の違いが分かりにくかった。例えば、「ここからは特別賞の紹介です」といった形で、ミュージックビデオの賞のブロックと分けて紹介すれば、見やすかったと思う。
- テロップが最小限の情報のみと感じた。見過ごすこともあったので、もう少し見やすく出してもいいと思った。

○プロンプターの位置の影響だと思うが、MCの視線が下向きになってしまうことが気になった。このようなアワードの進行と考えた際に、手持ち台本にしてもいいのではないかと思った。

○受賞トークとパフォーマンスで分かれて出演する構成に関して、見ていくうちに、こういった構成だという事が分かってからは気にならなかったが、最初は分かりにくいと感じた。事前にMCからちゃんと説明すれば、分かりにくさも解消し、お客さんもより楽しめたのではないかと思う。

○山下智久さんが受賞トークで、ご自身でスタッフを決めてミュージックビデオを制作した話をしてしたが、こういった話が他のアーティストでも聞けるといいと思った。

○番組の中で受賞作品のミュージックビデオを見ることができるといいと思った。

○受賞作品に関わっているクリエイターの名前を触れてほしいと思った。また、クリエイターもステージに登壇して、アーティストと一緒に表彰してもいいのではと感じた。

(MTV側)

受賞作品は同日の番組終了後に別番組として、ミュージックビデオ特集を編成していた。クリエイターに関しては、ミュージックビデオのディレクター名を受賞発表の際に記載しているが、貴重なご意見として、番組内で紹介していくことも今後検討していきたい。

・審議機関の答申、又は改善意見に対してとった措置、その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和6年3月6日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申、又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和6年4月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。

・「シーエス・ワンテン 放送基準」の変更について

「民放連 放送基準」が令和6年4月1日付にて一部改正されるのに伴い、「シーエス・ワンテン 番組基準」の変更が諮問され、委員より異論なく承認された。

以上